

春夏秋冬



武蔵野会ニュース No.176 令和2年1月15日

発行 社会福祉法人武蔵野会

本部 東京都八王子市旭町12-4.201 TEL.042(631)6341

<http://www.musashinokai.jp/>

新年のごあいさつ



第18回くすのき祭りのフィナーレは、
ゲストパフォーマーやボランティアの皆さんも
一緒に恒例の全員ダンス！

トーク

「普通の人の思い」を

再認識する

アフガニスタンで亡くなった中村哲さんは、生前の映像で「なぜアフガニスタンにとどまり活動を続けているのか」という質問に「目の前に困った人がいて、そこから離れるのは、普通の人のすることではない」と応えました。住民の心を動かし、何年もかけて川に堰を作り、干ばつ地域まで水路を繋げ、60万人以上が生活できる緑の大地ができ、農業、酪農などの産業につながり市場も建ちました。さらに住民の心よりどころとなるモスクも完成させました。中村さんは、下痢や栄養不足で多くの子どもや老人が死ぬ現状は、医師が何百人いても救えず、三度の食事をとることこそ医療の基本で、食と労働さえあれば、兵士として戦うことはないと言います。中村さんの活動は、大偉業ですが、始まりは「普通の人の感情だ」と、冒頭の中村さんの言葉が教えてくれます。

武蔵野会のDNA「見て見ぬふりをしない、やむにやまれぬ思い」も、「普通の人の感情だ」ということを改めて思いました。福祉従事者が「普通の人の思い」を地域住民と共有することが、制度や法の狭間で生きにくさを抱えた人を地域で支える共生社会の基盤になるとも思いました。

先日、全国福祉系大学の就職担当者が集まる研修に参加しました。福祉施設で働きたい学生が多い大学は「福祉の歴史や福祉の心」言わば福祉マインドの醸成に力を入れているという結論でした。また、先日読んだ本には「人口減少社会を突き進む日本が持続可能なポイントには福祉思想の空洞化からの脱却だ」という記述がありました。普通の人が持っているはずの福祉の心を、再認識することこそが日本の将来に大きく関わっていると考えると、多くの若者が福祉に従事することが日本にとって大きな意味を持ちます。当法人の理念「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」の意味が更に深まるように感じました。

社会福祉法人武蔵野会 理事長 高橋 信夫

謹賀新年

理事長 高橋 信夫



明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

日本の社会保障は、これまでにない局面を迎えています。日本が方向を変更しなければ、これまでにならない時代へと傾く歴史的な分岐点だと思います。

武蔵野会も、大きな転換期に突入しています。今年から3年間で、施設長の半数近くが定年を迎えるという、最も大きな変化を迎えます。しかし、変化には心配を上回る期待があります。現在、次の世代が法人の研修を動かし、これからの10年を見据えて頑張っています。

年頭に当たり、若い職員が生き生きと働き、利用者支援の質が高まり、社会公益事業を促進し、地域共生社会に貢献できるような、期待に満ちた変化となるよう頑張りたいと思っています。

後援会会長・評議員

石谷 暢司



新春を寿ぎ、ご支援に深く感謝申し上げます。

後援会は、武蔵野会が経営する施設の利用者のために、より良い環境作りなどに物心両面から37年間途絶えることなく協力を続けています。この原動力は、会員一人一人の力強い信念と、会の目的を理解した弛まぬご支援の賜物です。各施設から送られてくる広報誌は、利用者の明るい笑顔が印象的で、職員皆様の献身的な努力と創意工夫が読みとれます。社会経済が厳しい状況の中、後援会活動にも少なからず影響はありますが継続は力なりと言われます。利用者皆様の健やかな生活に後援会活動が少しでも役立つ姿が広報誌に反映されることを願い、本年もご協力をよろしくお願いたします。



法人役員挨拶 (順不同)

【理事】



青木 秀雄
(明星大学名誉教授)

隣人愛と深い洞察により、利用者様の生活の質向上のために本年も力を尽くしましょう



金森 仁
(弁護士)

理事を引き受けて27年経ちました。令和を迎え、福祉への気持ち新たにしています。



今坂 康志
(医師)

新年あけましておめでとうございます。今年も利用者さんのご健康のため、一生懸命頑張ります。



上野 純宏
(前理事長)

全ての人の尊厳を守る福祉・環境・平和。今年もみんなで頑張ってください！



我妻 弘

(練馬福祉園施設長)
今年はずいぶんね。ねずみが増えるように実り豊かな年になることを願っています。



中山 政夫

(法人本部次長)
「急がずにだが休まずに」勤続三十三年。業務執行理事二度目の新春のご挨拶になります。



峯尾 常雄

(八王子市心身障害者福祉センター所長)
「初日の出いっしかりを正し居り」今年も良い年でありたい。



山内 哲也

(リアン文京総合施設長)
皆様の安心と安全を守ること



山田 貴美

(法人本部長)
武蔵野会が皆さまに安心して

利用していただけるように、今後も努力を続けてまいります。

【監事】



春日 完和
(元首席家庭裁判所調査官)



谷口 健吉
(税理士)



青木 昌子
(元理事長)



井上 明子
(弁護士)



久保健一郎
(慶応義塾大学医学部准教授)



小林 隆猛
(東京都民生委員児童委員連合会常任協議員)



中村 文子
(NPO法人東京都自閉症協会理事)



西野 榮男
(元八王子市社会福祉協議会常務理事)



原田 正樹
(日本福祉大学副学長)



福山 雅史
(東京都社会福祉事業団理事
東京都石神井学園施設長)



渡邊 瞭
(元エーザイ株式会社顧問)



横山 宏
(東京都社会福祉協議会副会長)



須永 正
(元社会福祉法人武蔵野会施設長)

武蔵野のむさしの

「まだ大丈夫」の

ゆでガエル

二酸化炭素の排出量増加に伴って地球の温暖化が進み、環境が破壊されて生態系に影響が出ているという話は、ずいぶん前から聞いています。「根拠がない」という意見がある一方で、具体的な数字を挙げて「世紀末は大変なことになる」という研究者もいます。

実感としては、夏のゲリラ豪雨や大型台風、連続襲来、線状降水帯による長期にわたる豪雨災害、サンゴの北限上昇や標高による植生帯の変化など、何かを変えたいという感覚は専門家でない私にも伝わってきます。この冬に至っては、「雪が無いのでスキー場が開けない」とか、「野菜が良く育つので価格が下落している」というニュースを見聞きするにつけ、二酸化炭素だけが悪者ではないにしろ、環境の変化が影響していることくらいは素人目にもわかります。

「まだ大丈夫」あるいは、変化に気づかない様の逸話として「ゆでガエル」のお話を聞いたことがある方もいらっしゃると思います。環境破壊と人間のあり様を比喩的に表現する際によく引き合いに出されます。「カエルを熱湯に入れると驚いて飛び出すのが、常温の水から徐々に加熱すると、生命の危機に気づかぬうちにゆであがって死んでしまう」というお話です。「このお話に科学的な根拠はない」と否定されてはいますが、「そのうち何とかなるだろう」と悠長に構えている我々には示唆に富むお話であると思います。

プラスチックごみの問題もまた然り。日本人一人当たりのプラスチック廃棄量は、アメリカについで第2位の年間32kg。日本のプラスチック生産量が世界第3位というのですから、日本が世界に果たさなければならぬ責任は、誰の目にも明らかかな感じがします。海洋にたどり着いた5mm以下の微小マイクロプラスチックが及ぼす影響はまだまだ計り知れませんが、「粒子となって空気中にも漂っているのでは」という話を聞くと、便利さを追求してきた私たちが次に何をすべきかがわかる様な気がします。

八王子生活実習所

施設長 岡部智彦



練馬福祉園
施設長 我妻 弘



練馬区立北町福祉作業所
施設長 村山俊彦



リアン文京
施設長 山内哲也



八王子生活実習所
施設長 岡部智彦



文京福祉センター江戸川
施設長 野村美奈



練馬区立光が丘福祉園
施設長 横尾泰朗



さくら学園
施設長 川野文幸



すぎな愛育園
施設長 福元 興



練馬区立光が丘障害者地域生活
支援センター「すてっぷ」
所長 石野拓朗



大島恵の園
施設長 吉倉美佐子

明けましておめでとうございませす
本年もよろしくお願ひ致します
社会福祉法人武蔵野会職員一同



世田谷区立駒沢生活実習所
施設長 木村文孝



世田谷区立烏山福祉作業所
施設長 野々村武志



希望の里
施設長 野田久美子



小平福祉園
施設長 多々良康子



白鳥福祉館
施設長 大島安彦



東堀切くすのき園
施設長 金澤正義



世田谷区立世田谷福祉作業所
施設長 伊藤久美子



西水元あやめ園
施設長 富山孝行



世田谷区立九品仏生活実習所
施設長 山内ゆきみ



八王子市心身障害者福祉センター
施設長 峯尾常雄



練馬区立大泉町福祉園
施設長 宮原康輔



第2大島恵の園
施設長 安田喜人



法人本部職員



千代田区立障害者福祉センター「えみふる」
施設長 高橋道也



八王子福祉作業所
施設長 松岡利明



きね川福祉作業所
施設長 大和田卓



武蔵野児童学園
施設長 金子陽介

ニュース ラウンジ

わいわい祭り こっちーあっち編〜大団円

世田谷福祉作業所

降雨が予想された11月3日、しかしその日は「晴れの特異日」、文化の日です。天気はなんとか持ちこたえ、作業所の一大イベント「わいわい祭」は、盛況のうちに幕を下ろしました。

実行委員会「わいわい隊」を結成し、近隣の公園も会場に加えた今の形になり9年目、毎年少しずつ装いを変えてきました。30以上の出店やコンテンツが並び、500名を超える来場者をお迎えし祭りが成功裡に終わったのは、わいわい隊だけでなく、約80名のボランティアさんのお力がとても大きかったです。

さて、施設移転を来年4月に控えた今年は、「こっちーあっち編」と題し、引っ越しや2019年〜2020年を象徴する企画のほか、すっかりおなじみの巨大風船迷路や盆踊り、商店会の本格フード出店、あの人気マスコット

「ボンタ」まで登場する、まさにあちこちが「わいわい」盛り上がるお祭りとなりました。すぐ隣とはいえ施設の移転や、生活介護事業の新規開設などを控え、来年以降のわいわい祭は、大きく様変わりすることになるでしょう。どのような形で皆さんの前に登場するかは、東京オリ・パラが無事に閉幕したところに明らかになるでしょうか。



祭りを盛り上げる太鼓の演奏

被災地バスパック ボランティア 法人本部

平成23年に発生した東日本大震災以降、地域公益活動として宮城県石巻、気仙沼、福島県南相馬で被災地支援を行っています。現在は、5月から12月にかけて毎月1回10〜20

名程の法人職員が、マイクロバスで金曜夜に東京を発ち、南相馬で地元の被災支援活動をしている民宿に宿泊し、翌土曜日に活動しています。これまで延べ約1000名の職員が活動してきました。小学校の校庭などに積まれたがれきの山や、放射性物質に汚染された土が入っている黒い袋（フレコンバック）がいまだに積み重なっている現状を見るたびに爪痕の大きさを改めて感じます。震災直後は、がれきの撤去や土砂の排除等が主でしたが、最近では帰宅困難地域の解除に伴い、何年も放置された民家の草木の整備などを行い、高齢の方が家に戻るための準備等を地元ボランティアアセンターを通して行っています。武蔵野会は、「やむにやまれぬ思い」や、「困っている人を見逃ごせない」という原点に沿った社会貢献活動を実践しています。



これからも応援を続けます

施設あれや これや

西水元あやめ園

11月14日、利用者の方と職員で共に作る音楽祭「オータムコンサート」を開催しました。利用者の方々は、昔を思い出しながら練習を重ね、この日を迎えました。本番は素晴らしい演奏を披露して下さいました。笑顔が溢れ続ける音楽祭となりました。

小平福祉園

12月7日、小平市中央公民館で市内80団体が参加する「第6回みんなで作る音楽祭」に小平福祉園からサンライズ（就労継続支援B型）がバンド演奏で参加しました。練習の成果が十分に発揮され、会場が一体となる盛り上がりを見せました。

駒沢生活実習所

昨年10月末から進めていたエアコン等の大規模修繕がようやく終わり、2か月間代替施設で過ごした1、2グループの皆さんと無事に合流。LED照明で見違えるように明るくなった実習所で、今年は新たな気分で新年を迎えることが出来ました。

丸品仏生活実習所

初めての取り組みとなる陶芸教室を11月に開催しました。今回は親子参加で募集したところ3組の申し込みがありました。皆さん陶芸は初めてでしたが、講師の指導を受けながらイメージ通りの作品が出来上がったようです。

八王子生活実習所

11月末の3日間、八王子駅北口東急スクエアビル11階でHSSJ展を開催しました。利用者皆さんが作ったアート作品は、どれも心温まるものばかり。平日にも関わらず多くの皆さんに来場いただきました。東堀切くすのき園からも秀作のご参加をいただきました。

希望の里

今年の干支（ねずみ）の木工製品販売中です。杉の木材からねずみの形を切り出し、利用者さんが丁寧にヤスリで磨き上げ、蠟でコーティングして仕上げた作品です。木のぬくもりを感じてみてください。

八王子福祉作業所

10月19日、隣接する団地と、合同防災イベントを開催しました。秋空の下、消防車も登場し、救命救急や消火器訓練等の防災の勉強をし、炊き出しの豚汁を味わいながら、利用者皆さんと地域の人たちとの交流の場になりました。

えみふる

今年度、地域交流委員会を立ち上げ、大学のボランティア窓口の声掛け、同じ御茶ノ水の明治大学からジャグリングサークルとマンドリンサークルにパフォーマンスを披露して頂き、利用者の皆様に大好評でした。

避難所開設

台風19号

西水元あやめ園

10月12日夜、関東を大型台風19号が直撃しました。葛飾区はいくつもの川に囲まれており、水害のリスクが高い地域です。

10月10日、「職員を配置するの福祉避難所として受入を行って欲しい」と区から一報が入りました。12日9時、荒川と中川が氾濫危険水位に近づき、13時前には、「避難準備・高齢者等避難開始」が発令され、朝から近隣住民の問い合わせ電話が相次ぎました。午後、1階に要介護者用ベッドを8台用意し、床には付添者や避難者が横になれるよう段ボールの上にベッドパッドを敷きました。ラントンを要所に置き、携帯用ライントを避難者に配布して、受付は区の職員が行いました。携帯電話に鳴り響く河川の状況や警報には、生きた心地がしませんでした。

都度、区の職員と相談しながら19世帯33名の避難者の対応にあたりました。皆さん不安な一夜を過ごされましたが、幸い何事もなく、翌13日8時前には全員が無事帰宅されました。

要介護者の移動手段確保やオム

ツ交換時のプライバシー確保、臭気の問題、備蓄品の不足など、様々な課題があることを実際に経験したことで再確認できました。今後葛飾区や地域の方と共に、防災対策を早急に進めていきます。



法人防災訓練の様子から

お花茶屋駅・亀有駅頭で 赤い羽根の募金活動

葛飾地区

昨年11月15日、勤務後の夕暮れ時に、葛飾地区4施設合同による赤い羽根の街頭募金活動を行いました。職員28人が京成本線お花茶屋駅3ヶ所、JR線亀有駅5ヶ所に分かれて約1時間、道行く方々に募金を呼び掛けました。

赤い羽根共同募金は毎年10月から翌年3月まで行われ、全国の民間社会福祉事業推進や被災地支援に役立てられています。武蔵野会は過去に助成をいただいたことも



お花茶屋駅頭にて。通り掛かりの方々の篤志に胸が熱くなります

お知らせコーナー

1月

- 4日(土) 新成人を祝う会 (八王子生活実習所)
- 8日(水) 市長表敬訪問 (八王子地区)
- 10日(金) 新年会・餅つき会(東堀切くすのき園)
- 15日(水) 武蔵野会Meet.Up.Tour vol.2 (八王子地区)
- 17日(金) 新成人を祝う会 (東堀切くすのき園)
- 27日(月) 実践事例報告会 (千代田・文京地区)
- 31日(金) 法人総合防災訓練 (全事業所)

2月

- 1日(土) 実践事例報告会 (葛飾地区)
- 15日(土) 第5回くすのきART展~18日(火) (東堀切くすのき園)
- 21日(金) 実践事例報告会 (八王子地区)
- 25日(火) 音楽会 (八王子生活実習所)
- 28日(金) 実践事例報告会 (御殿場地区)

3月

- 23日(月) 法人新任職員研修 (辞令交付式)
- 24日(火)

東京都は、幅広い方々に福祉の仕事のやり甲斐を実感してもらい、就業意欲を高めてもらうことを目的として、福祉を専門に学んでいる学生等を対象とした福祉職場におけるインターンシップ事業を、春夏の年2回実施しています。

八王子福祉作業所でも受け入れ開始から今年で3年目となり、こ

インターンシップ 八王子福祉作業所



れまでに12名の学生が体験されました。皆さん、福祉の仕事の素晴らしさや利用者さんとの関わりの楽しさをお話ししてくれました。

また、体験後に作業所のボランティア登録をし、2年間定期的に活動している方もいます。



福祉の仕事の魅力を伝えたい

ショーケース

自主生産品紹介

新商品

手作りビーズ製品

光が丘福祉園

☎03・3976・5100

「ひかりまつり」などで、手作りのビーズ製品を販売しています。ストラップやチェーン付きで、携帯電話やカバンのワンポイントにお勧めです。ビーズの色とチャームの組み合わせがたくさんあるので、皆さん手に取って、お気に入りの一点を選んでくださっています。



プレゼントに最適です

レアチーズケーキで お待ちしております

八王子福祉作業所

☎042・626・0631

はちウエルかふえの人気ケーキと言え、360円のテイラミスですが、一番人気はやはり380円のレアチーズケーキ。上品な大人の甘さとチーズのコクが絶妙なバランスを醸し出しています。

2月のバレンタインに向けては、リキュールを忍ばせ、チョココーティングを施した新作を準備中です。



ぜひお試しください

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する27施設と9つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町1-19-3
電話・FAX 042-626-9772